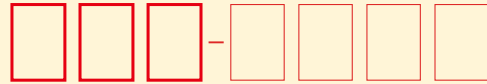




文月 齊 (ふみつき さい)  
 埼玉県出身。  
 人と街、自然と文化を題材に、  
 みちくさばかりの旅を続ける  
 エッセイスト。  
 函館、埼玉、大阪を拠点に  
 旅を満喫中。



巻頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

117

「秋の空、一人手ぶらで  
ジンギスカン」

前略、変わりはないか？  
 「秋の空には光沢がある」と言ったのはイギリスの詩人シェリーだったかな。彼の国とは  
 気候風土も違うだろうけど、秋の函館も見事な青空が広がる日が多いね。ここ一カ月は相  
 変わらずの流行り病で巣籠もり状態続きたったので、気晴らしがてら光沢のある青空に近づ  
 いてみることにした。  
 ローカル列車で向ったのは、JR函館駅から長万部行き函館本線6つ目の駅「仁山」。ほら、  
 前に車で大沼に行ったことがあるでしょ。トンネル手前の左手にスキー場のゲレンデが見え  
 ていたのを覚えているかな。あれが仁山だよ。いやいや、さすがの北海道といえども、スキー  
 ができるのはまだまだ2カ月以上先のこと。この時季の楽しみ方は山頂までのトレッキング。  
 リフトの保守管理のための道が整備されていてね、道に迷うこともなく山頂まで歩くことが  
 できるんだ。  
 仁山駅から山頂まではおよそ3km。駅前には温泉があつて、その横を進むと5分も歩か  
 ないうちにスキー場のロッジが出てくるんだ。真っ白い雪に覆われた冬のスキー場ならいくら  
 でも見たことがあるけど、草に覆われた緑のゲレンデはある意味新鮮な光景だね。リフトが  
 宙で止まっている様子は開園前の遊園地のようなでもあり、古い記憶が蘇るのかな、ジェット  
 コースターやメリーゴーランドなど、聞こえるはずのない音が聞こえてくるような錯覚を覚え  
 たよ。  
 道端には街では見られない野山の花が咲いていて、不意に野鳥が現れたり、演出もなか  
 なか。運がよければ(?)ヒゲマにも出会えるそうだけど、スキー場のスタッフでさえ実際に  
 見たことはないとのこと。それでも「出てくるかもしれない」という緊張感がほどよい刺激  
 になったね。歩き始めて約2時間、アトラクションのクライマックスは山頂からの眺望。  
 眼下には稲刈りを待つ田んぼがパッチワークのように広がり、その先の海には函館山が  
 小さな島のように浮かんでいるんだ。その絶景に感動していると、爽やかな風が吹いてきて、  
 抜けるような青空の中をトンボが舞い始めた。おやおや、ここは竜宮城かい？思わずリュック  
 の中からビールを取り出して飲もうと思ったけど、それは後のお楽しみ。予約の時間が近づい  
 ていたので下山することにした。  
 え、何の予約かって？実はこの日の目的はもう一つあって、今年の7月、仁山駅前にキャ  
 ンプ場がオープンしたと聞いて覗いてみることにしたんだ。その名も「ニヤマオートキャンプ  
 場」。駅前にそんな広いスペースがあつたかと思つて行ってみると、なるほどね、駅舎が  
 ある山側ではなく、線路を挟んだ向かい、元々ゴルフの打ちっ放し練習場があつた場所を再  
 利用して作られた施設だった。ここならフラットな場所なので、キャンプサイトに転用する  
 にはもってこいの場所だ。実際、車が乗り入れられるカーサイトにはRV車に混じってセダン  
 タイプの車の姿もあつたよ。全面が草地の場内はカーサイトの他、どこでも自由にテントを  
 張れるフリーサイトと、パーベキューコーナーがあつて…と、ここまで言えばもう分かるね。  
 今回のメインの目的がこのパーベキュー。前日までに1000円以上の食材を注文しておく  
 と、プラス500円で希望の時間に炭を熾して準備をしておいてくれるんだよ。そう、つまり  
 は手ぶらでBBQを楽しめるってわけさ。ちなみに僕が頼んだのはジンギスカン300g、  
 野菜付きで1200円というなかなかのコストパフォーマンス。君と違って小食の僕ならこれ  
 で十分。さっそく焼き始めて、先ほど我慢したビールで乾杯！そうなんだよ、ドリンクも食材  
 も持ち込みは全面的にOKっていうのが嬉しいよね。一人焼肉っていうのは聞いたらことある  
 けど、まさか「一人ジンギスカン」がこんな眺めのいいロケーションで楽しめることは。列車  
 に乗って、手ぶらで来て、秋空の下でビールをチビり。この贅沢な時間、シェリーだったら  
 どんな詩にしてくれるかな。今度一緒に来て考えてみようよ。ビールをワンケース用意して  
 おくからさ。それじゃあまた。

